

1 市内のどの地域でも収集員が訪問します



2 ごみは玄関先などあらかじめ決めた場所に置くだけ



3 収集は週1回。声かけで見守りにもつなげます



変わらないよ。いつもありがとね

ごみ回収しますね。体調はいかがですか



「ずっと利用し続けた」と話す早川さん

利用者の声①
 「玄関先にごみを置いておくだけなので、本当に楽ですよ」。そう話すのは萩原ハルミさん（倉瀬町・上写真左）です。高齢の萩原さんは、おとし、体調を崩して入院し足腰が弱くなってしまいました。家の前が急な下り坂のため、ごみを運ぶときは手押し

かっています。収集員さんによる声かけで見守りにもつながって良いですね」と安心しています。

利用者の声②
 障害があつて苦労していたごみ出しが楽になりました

利用者の一人、早川文治郎さん（旭町）は集合住宅で上の階に暮らしています。視覚に障害のある早川さんは、このようなサービスを待ち望んでいました。このサービスでは、集合住宅の場合も、各部屋の玄関先まで収集員が伺います。利用する前、早川さんは、ごみを持ちながら壁伝いに階段を下りたり、ついでごみステーションの場所を探ったりと、大変な思いをしてきたそうです。「ごみを持ちながらだと危ないし、時間もかかるし。このサービスは、上の階の玄関先まで収集に来てくれて、こんなにありがたいことはありません」と早川さんは話します。

利用者の声③
 小さな子どもがいる人も利用できて良いですね

忙しい子育て世帯にとって、このサービスは心強い味方です。原田公子さん（北双葉町）は、2人の子どもを育てるママ。「子どもから目が離せないで、決められた時間までにごみを出すのが大変でした」。サービスのことは、市の保健師から教えてもらいました。「双子だから、おむつや粉ミルクの缶など、ごみの量も2倍になって。離れた場所にあるごみステーションまで、重たいごみを持って行く必要がなくなり助かっています」と話す原田さん。知合いのママたちにも、このサービスをお勧めしているそうです。

高齢者ごみ出しSOSは、高齢者はもちろん、小さな子どもがいる人や妊娠中の人も対象です。ぜひご利用ください。

その「ごみ出し」、お手伝いします 高齢者 ごみ出しSOS

市は、ごみ出しが困難な世帯をお手伝いするサービス「高齢者ごみ出しSOS」を行っています。対象は高齢者だけの世帯や小さな子どもがいる世帯などで、費用は無料。市の委託した業者が週1回自宅を訪問し、声かけをしながらごみを収集します。今月号では、利用者の声やサービスの利用方法などを紹介します。

問い合わせは、一般廃棄物対策課（☎321・1253）へ。

利用者の声①
 「玄関先にごみを置いておくだけなので、本当に楽ですよ」。そう話すのは萩原ハルミさん（倉瀬町・上写真左）です。高齢の萩原さんは、おとし、体調を崩して入院し足腰が弱くなってしまいました。家の前が急な下り坂のため、ごみを運ぶときは手押し

車を押して坂を上り下りしなければならず、苦労していたそう。このサービスが始まったことを広報高崎で知り、すぐに電話で申し込みました。ごみを置く場所などを市と相談して決め、利用を開始。「顔なじみになった収集員さんに、ひと声かけてもらえるのも楽しみなんです」と萩原さんは笑顔です。離れて暮らす娘の江原ひろ子さんも「毎回手伝いには行けないので助

利用者の声④

声をかけてもらいいつも安心してます

収集員が声をかけてくれて安否確認を行うのも、このサービスの特長です。決められた時間にごみが出ていないときや、応答がないときなどは、業者が市に連絡。市は、登録されている緊急連絡先に連絡します。

「定期的に声をかけてもらえるのは安心です」と話すのは、夫婦2人で暮らす清水正雄さん（宮沢町）です。正雄さんは、体調が悪くなり動けなくなったときに、収集員に救急車を呼んでもらった経験があります。「急に胸が苦しくなって。自分ではどうすることもできなかったので、助



清水正雄さん(左)・フサ子さん

かりました」。妻のフサ子さんも「市から連絡があったときは驚きました。すぐに連絡をもらえて、ありがたかったですね」と話します。

収集員に聞きました

正雄さんを助けたのは、榛名地域などを担当する収集員の伊與部亜維さんと高橋久男さんです。「すぐに救急車を呼びました。その後の連絡も、市と連携してスムーズに対応することができました」と伊與部さん。高橋さんは「利用者宅を訪問するときは、いつもと様子が変わらないうかなど、常に気を配っています」と話します。

高齢者ごみ出しSOSは、暮らしの安心にもつながるサービスです。



伊與部亜維さん(左)・高橋久男さん

高齢者ごみ出しSOSの利用は、まず問い合わせを

利用を希望する人は、まずは一般廃棄物対策課(☎321-1253)に相談してください。本人や家族の他、ごみ出しに困っていることを知っている近所の人にも申し込みできます。

収集方法

週1回、決められた曜日に、業者が利用者宅を訪問。玄関先など、あらかじめ決めた場所に置かれたごみを収集します。収集するときは声をかけて見守りにつなげます

出せるごみ

燃やせるごみ・燃やせないごみ・資源物・危険物(通常のごみ出しと同じように分別してください)

対象世帯

ごみ出しが困難で、次のいずれかに当てはまる世帯
●70歳以上の高齢者だけ
●障害のある人だけ
●早朝勤務や単身赴任などで家族の協力が難しく、妊娠中の人か3歳未満の子どもがいる

費用

無料



「高齢者ごみ出しSOS」の収集員をかたり、費用を請求する事案が発生しています。同サービスの費用は無料です。不審な電話や訪問があったら、一般廃棄物対策課へ相談してください

第20回吉野秀雄顕彰短歌大会

本市出身の歌人・吉野秀雄の功績をたたえる「第20回吉野秀雄顕彰短歌大会」の入賞者が決まりました。今回は、一般の部に180首、学生の部に7513首の作品が寄せられました。主な入賞作品は次のとおりです(敬称略)。

吉野秀雄賞

ゆくりなく日照雨落ちくる菜園を群れとぶ蜻蛉の翅のきらめき
白藤巳玲(埼玉県本庄市)
盆棚に置いたコーヒー香り立つ写真の祖母が笑って見えた
橋本大和(国府小5年)

高崎市市長賞

読みあさる家庭の医学の癌の項吾子の病名告知をされて
高橋伸治(榛東村)
おじいちゃんだけでてづくりうれしいなとまともいよくながしそつめん
山口広大(新高尾小1年)

高崎市議会議長賞

菜の花を触れてたしかめ6才の見えしあの日の知恋しき
堀口正雄(新町)
顔を見る度に「勉強どう?」と聞く外出できない祖父の楽しみ
江原朔玖(中央中等教育学校3年)

高崎市教育長賞

夫亡くし半年過ぎて初雪の峡の夜となり積もる悲しみ
茂木和江(倉沢町三ノ倉)

高崎市文化協会会長賞

緊張しワクワクン接種の会場へ友達見つけはつと安心
荒井隆輔(箕郷中1年)
特養の母の口癖「すみません」威張って生きていいんだぞと父
中澤ひろみ(前橋市)
不安げな表情する弟と手をつなぎ歩く春の通学路
高草木愛美(南八幡小5年)

群馬県歌人クラブ会長賞

宝石を受け取るような君の手にそつと渡したホタルの光
大山智也(みなかみ町)
絶望に負けぬ心で鍛え抜き感動与えるパラリンピック
鈴木里萌(健大高崎高2年)

ラジオ高崎社長賞

歌よみの愛せし甘楽の野にけふも夕立兆すかすき波立つ
北爪江美子(前橋市)
いつもより細かな気づかいお互いにマスクの下の小さな変化
神宮百花(八幡小6年)
向日葵の熟した核の黒々と畠みやれば夏もまぼろし
中田昌伸(東京通信大3年)

吉野秀雄ってどんな人?

歌人・吉野秀雄は、生涯で6200首余りの短歌を詠みました。明治35年、高崎市あら町の織物問屋に生まれ、青年時代から文学に親しみます。高崎商業高校から慶應義塾大学へと進学しましたが、胸を患い、大学を中退。病と闘いながら国文学を独修し、本格的に短歌の道を歩み始めます。4人の子を遺して亡くなった妻はつ子を詠んだ「短歌百余章」(昭和21年)によって、歌人としての地位を確立。生涯を通して結社や流派には属さず、独自の歌風を築きました。昭和42年、65年の生涯に幕を閉じました。
吉野秀雄の歌碑は、高崎商業高校と高崎公園、問屋町中央公園に建つ他、新潟県柏崎市や慶應義塾大学などにあります。



吉野秀雄(1902~67年)